

一般社団法人 日本神経精神薬理学会 第 78 回（拡大）理事会議事録

日時：2021 年 11 月 13 日（土）9：00～11：05、12：00～12：40

場所：東京都千代田区一ツ橋二丁目 4 番 4 号一ツ橋別館 4 階会議室を開催場所とする Web 会議

出席者（理事）：大隅典子、岩田仲生、池田和隆、糸川昌成、尾崎紀夫、北市清幸、久住一郎、新田淳美、
橋本謙二、橋本亮太、服部信孝、古屋敷智之、宮川剛、渡邊衡一郎

出席者（監事）：曾良一郎

出席者（委員長）：井上猛、中込和幸、成田年、森尾保徳、吉尾隆

出席者（ワザバ）：菊地哲朗

欠席者（理事）：喜田聡、橋本均、山田清文

欠席者（委員長）：内田裕之、山末英典

議長：大隅典子

本理事会は Web 会議システム（Zoom）を利用して行う旨を述べ、双方が画像、音声を確認したところ異常なく、上記のとおり理事の過半数の出席があり、本会議は有効に成立した。

冒頭に大隅理事長から逝去会員のお名前が読み上げられ、黙祷が捧げられた。

名誉会員 假屋 哲彦先生

監 事 吉岡 充弘先生

議案：

前回（第 77 回）理事会議事録の確認がなされ、異議なく承認された。

I. 審議事項

1. 2021 年度収支決算および 2022 年度収支予算について（大隅理事長、池田財務委員長）

➤ 2021 年度収支決算について

以下の点に関して、詳細説明があった。また、監事の曾良先生より、監査報告がされた。

- ・消費税を収支決算に追加計上した。2 年前（2019 年度）に課税売上高が 1,000 万円を超えたため、当時の会計事務所にて消費税の届出を提出しており、その 2 年後（2021 年度）に課税事業者となり、支払い義務が発生する。法人税に関しては、本年度より支払う予定である。
- ・今後は会計年度に開催された年会は、その年度に決算または概算にて計上する。本年度は収入支出ともに 50 回年会ではなく、51 回年会を反映している。そのため、50 回年会の収入は、雑収入にて計上している。
- ・事務局移転につき、銀行口座の移動があり、過去の未入金（2 件）や未払金（8 件）も相殺された。
- ・黒字会計にて、十分に運営ができる体制となっている。

➤ 2022 年度会計予算について

- ・前理事会からの変更点（会員数、年会収入支出の取り消し、年会学術活動費関係の修正、専門医制度委員会発足につき該当部分に追加、法人税消費税の追加）が、報告された。

審議の結果、2021 年度収支決算と 2022 年度収支予算は理事会で承認され、評議員会に諮られることとなった。また、以下のご意見があった。

- ・法人税と消費税の違いについて、質問があった。
- ・収入支出内容を精査し、公益社団法人への変更も検討する必要があるのではないか。年会収支も法人税を考慮した、予算計上を依頼すべきではないか。

2. 新入会希望者承認の件（北市総務委員長）

3名から入会希望があり、全員が承認された。

3. 新評議員承認の件（北市総務委員長）

4名の新評議員推薦があり、承認され、評議員会に諮られることとなった。

4. 統合失調症薬物療法ガイドライン改訂の件（中込委員長、橋本亮太委員）

公開までの手順が示され、承認された。

5. 専門医制度申請書類の件（橋本亮太委員長）

専門医制度委員会が発足した旨が報告され、日本臨床精神神経薬理学会と共同連携にて、精神科サブスペシャリティ学会認定の申請を行う。申請内容は、日本臨床精神神経薬理学会の専門医制度を継承し、本学会員も専門医になれるような形で進めていくことになった旨が示され、承認された。

II. 報告事項

1. 年会報告

➤ 第51回年会開催報告（宮川年会長）

宮川年会長より年会開催報告がされた。

・初めてのハイブリット開催だったが、727名（事前参加登録者427名、当日Web登録者249名、当日現地参加者51名）の参加者となり、音響設備体制をしっかりと整え、大きなトラブルはなかった。年会参加者が新型コロナウイルスに感染した報告は無かった。費用は、通常よりもかかったが、約36万を学会へ返還できた。

➤ 第52回年会準備状況報告（井上年会長）

井上年会長より年会準備報告がされた。

・開催日時・場所：2022年11月4（金）～6日（日） / 都市センターホテル/砂防会館、大会テーマ：「心」につながる基礎と臨床の架け橋、大会長：日本生物学的精神医学会（BP）加藤忠史 / 日本臨床精神神経薬理学会（CNP）久住一郎 / 日本精神薬学会（PP）三輪高市 / 日本神経精神薬理学会（NP）井上猛、NP年会役員：副会長 藤村洋太（東京医科大学八王子医療センターメンタルヘルス科教授） / 事務局長 榎屋二郎（東京医科大学精神医学分野准教授）。

・協賛企業の獲得を進めつつ、コアプログラムの検討を行っている。一般演題募集期間は、2022年5月18日（水）～7月6日（水）を予定している。教育講演等、本学会会員限定ページでの公開も検討したい。

➤ 第53回年会準備状況報告（服部年会長）

服部年会長より年会準備報告がされた。

・日程：2023年9月7日（木）～9日（土） / 会場：東京ドームホテル、大会長：服部信孝（順天堂大学医学部神経学講座主任教授） / 事務局長：西川典子（順天堂大学医学部神経学講座准教授） / 運営事務局：株式会社コンベンションリンクージ。

・他学会との合同年会の検討も行う（服部年会長一任とする）。

2. 各委員会報告

➤ 執行委員会（大隅委員長）

報告事項無

➤ 総務委員会（北市委員長）

前回の理事会（7月13日）以降の対応について報告がされた。

・持ち回り理事会（4回）にて、監事1名体制、新入会員4名、後援依頼2件、評議員推薦書改訂の承認依頼（すべて承認済み）、年会抄録集販売、2021年度会費の催促と2022年度会費の支払い案内を行った旨が、報告がされた。

・2021年10月31日現在の会員動向について以下の通り報告がされた。

会員数	1,974名
名誉会員	32名
功労会員	55名
評議員	317名
一般会員	1,334名
学生会員	215名
法人会員	12社
退会	27名

➤ 財務委員会（池田委員長）

・報告事項無（審議事項1を参照）

➤ 倫理委員会（尾崎委員長）

・新指針を踏まえた活動を引き続き行う。

・本学会 HP の該当部分へ精神神経学会の倫理ガイドラインを掲載して欲しいが、特に「症例報告」に関して、脳神経内科分野に正誤性がないか確認を行う必要がある（服部先生、広報委員会にて要対応）。

➤ 編集委員会（宮川委員長）

・2021年9月30日に日本臨床精神神経薬理学会の学会誌 Clinical neuropsychopharmacology and Therapeutics (CNP) と NPPR の合流について、NP、CNP 合同編集会を開催し、両理事長間で覚書（10月1日付）を交わした。NPPR の HP には、Official publication of The Japanese Society of Neuropsychopharmacology and The Japanese Society of Clinical Neuropsychopharmacology との記載が完了している。ただし、著者が API 支払い時に選択をする NP/CNP 会員有無の登録システムは、11 月中に公開予定であり、すべての作業が完了次第、会員へメールにて案内を行う予定である。投稿数が増え、編集委員の負担が大きくなってきているが、CNP 側の委員も増えるため、現状が改善される見込みである。役員へ、Associate Editor 候補の推薦依頼があった。

・BPNP2021 において NPPR シンポジウム、NPPR ジャーナル賞表彰式を開催した旨、報告がされた。引き続き、人を対象としたオープンデータの準備の仕方について理解と普及を行っていく。

・科研費「研究成果公開促進費 国際情報発信強化(B)」の申請を行った。

➤ 国際学術委員会（新田委員長）

・AsCNP2021 が 2021 年 10月22-23日にオンラインにて盛況に開催された。AsCNP2023 は、2023 年 9月22-24日に西安で開催予定であり、AsCNP2025 は、協議中である。例年、基礎系の投稿が少ないため、応募を募る。

・第 6 回アメリカ神経精神薬理学会（2021 年 12月5-8日、San Juan, Puerto Rico、ハイブリッド開催）への参加+ポスター発表枠の招待が来ており、7月25日を締切りとし、8 名が選出された。

・CINP2024 は、池田和隆年会長にて東京にて開催されるため、種々、協力依頼があった。

➤ 広報委員会（古屋敷委員長）

・本学会 HP/SNS の更新やメルマガ配信（毎週水曜日）を引き続き行う旨、HP リニューアルの完了が報告された。イベント情報や求人情報等、会員への情報発信依頼があった。

➤ 企画委員会（喜田委員長、代：大隅理事長）

・年会時の講演等、会員向けオンデマンド配信を活用いただきたい。

・他学会との連携シンポジウムの企画を検討している。

➤ 学術賞選考委員会（糸川委員長）

・2021 年度学術奨励賞 2 名の受賞報告があった。

【受賞者】

久保田学（京都大学医学部附属病院/量子科学技術研究開発機構量子生命・医学部門 量子医科学研究所）

タイトル：ヒト生体脳の標的分子可視化技術に基づく精神神経疾患の新規治療戦略

大村優（北海道大学）

タイトル：各セロトニン神経核・神経経路が情動・認知機能に果たす役割の解明

・JSNP Excellent Presentation Award for AsCNP2021 の審査中であり、吉岡委員ご逝去のため、井関雅子教授に選考委員にご就任いただいた。

➤ トランスレーショナル・メディカル・サイエンス委員会（森尾委員長）

・昨年度、打診のあった 2 社に確認したところ、本邦での開発が未定のため、決定したらコンサルテーションをお願いしたいとの連絡があった。

➤ 薬事委員会（渡邊委員長）

報告事項無

➤ COI 委員会（橋本謙二委員長）

・統合失調症薬物治療ガイドラインの本学会の利益相反について確認し、COI 委員会で承認を行った。

➤ EGUIDE 委員会（橋本亮太委員長）

・2021 年度の統合失調症薬物治療ガイドライン講習及びうつ病治療ガイドライン講習を 8 回実施し、約 200 名の方が参加予定であり、Web 講習会により、費用削減へ繋がった。BPNP2021 時の統合失調症薬物治療ガイドライン講習は、21 名が参加し、25 万円程度の収入があった。

・精神神経学会のガイドライン検討委員会より、精神神経学会で作成した「精神疾患を合併した、或いは合併の可能性のある妊産婦の診療ガイド」と「統合失調症に合併する肥満・糖尿病の予防ガイド」についての普及に関して協力を求められ、EGUIDE 講習の一部に取り入れることとした。その結果、EGUIDE プロジェクトは、日本臨床精神神経薬理学会、日本神経精神薬理学会、日本うつ病学会に加え、日本精神神経学会の四学会の合同プロジェクトとなった。

➤ 専門医制度委員会（橋本亮太委員長）

・報告事項無（審議事項 5 を参照）

・本学会 HP の委員会一覧へ追加する（広報委員会にて要対応）

➤ 中枢薬専門薬剤師あり方検討ワーキンググループ（吉尾委員長）

報告事項無

➤ Nomenclature ワーキンググループ（内田委員長、代：大隅理事長）

報告資料が示された。

➤ 統合失調症薬物療法ガイドラインタスクフォース（中込委員長、橋本亮太委員）

・ガイドラインの英文化が NPPR に掲載され、本学会のメルマガや HP にて周知し、アジアにおいては AsCNP でシンポジウムを企画して周知を行った（審議事項 4 を参照）。

➤ クロザピン対応タスクフォース（橋本亮太委員長）

・クロザピンの普及のため、4 学会合同でクロザピンの規制緩和の要望を 3 月に行い、6 月 3 日に添付文書の改訂が行われるという大きな社会貢献につながった。この内容については本学会 HP 及びメルマガにて周知を行った。

・糖尿病の場合の 2 週間隔の基準及び、通院医療機関の基準が CPMS 内で整合性が取れておらず、厳しい基準のように読めてしまうため、改訂を求める要望について厚労省と相談し、10 月 20 日付で 4 学会合同でクロザピル適正使用委員会に要望書を提出した (<http://www.jsnp-org.jp/news/img/20211020.pdf>) 。

➤ 会員交流促進タスクフォース（宮川委員長）

報告事項無

➤ 先端研究推進基盤構築タスクフォース（成田委員長）

・「研究活動推進のためのドライ解析研究の推奨」に関して、委員会内に WG（永井 WG 長）を設定し、討議した結果、以下の提案が委員会になされた。

①ドライ研究推進のためのプラットフォームを整備する

研究分野のエキスパートによるレクチャー（年間 6 回程度）や研究相談窓口を設置し、会員が実施する研究をサポートできる環境づくりを目指す。

②「製薬企業のニーズ」に関するアンケートの実施

製薬企業の基礎研究者および臨床開発者を対象としたテーマ毎の講習会・分科会・情報交換会のニーズに関するアンケート調査を日本製薬工業協会（製薬協）の研究開発委員会に加盟している 35 社へ（事務局より）依頼し、回収した（依頼日：2021 年 4 月 15 日）。アンケート回収会社は、22 社（同会社複数回答のため、アンケート回答数は、44 件）であった。

➤ 児童思春期神経精神薬理タスクフォース委員会（山末委員長、代：大隅理事長）

・報告事項無

➤ 不安症治療ガイドラインタスクフォース（井上委員長）

・3 年以上をかけ、パブコメ、リーガルチェックを反映させた最終案を両学会理事会でメール審議し、さらに改訂を行い、「社交不安症の診療ガイドライン」の最終版を 9 月 1 日に学本学会 HP/SNS で公開した。現在、社交不安症の診療ガイドラインの MINDS 登録作業を行っている。

・強迫症、パニック症については系統的レビューを完了したが、推奨決定はまだ行われていない。強迫症のガイドライン発表を促進するために、まず MINDS 登録を目指さずにガイドラインを完成することを不安症・強迫症治療ガイドライン合同作成委員会で決定し、理事会でも承認を得た。

➤ 臨床神経薬理研究基盤構築タスクフォース（服部委員長）

・BPNP2021 において、精神科領域と脳神経内科領域の融合目指し、「精神疾患と神経疾患を横断する病因・病態研究の最前線」としてジョイントシンポジウムを開催した。ジョイントシンポジウムの継続は次年度の 52 回年会にもお願いしたいと考えている。また活性化には年 1 回ではなく年大会とは別に精神科領域と脳神経内科のブレインストーミング的研究会の立ち上げが必要と考えている。そのために脳神経内科からの入会者を増やす必要があるが、まず融合的研究会の立ち上げを計画したい。

Ⅲ. その他

➤ 日本学術会議について（尾崎先生）

・脳とこころ分科会の活動を中心に、神経倫理や研究のあり方、COVID-19 対応について報告がされた。

➤ 日本脳科学関連学会連合（池田先生、尾崎先生）

・産学連携検討のため、WG が発足した。評議員にアンケートを実施し、所属学会とは違った形で貢献すべく、脳科学コミュニティの意

見を集約し、政府や国民、学協会等に対して積極的に意見表明を行う。今後、企業からの脳科連携法人を募ることとなった。
・製薬企業協力のもと、脳神経内科領域と精神科領域の合同研究会の立ち上げや臨床・基礎分野を超えたブレインストーミングの開催等、精神外科のような必要性を検討すべきとのご意見があった。

➤ 今後の開催スケジュール

・執行委員会は2022年1月、理事会は4月を予定している。

以上

令和3年11月13日

一般社団法人 日本神経精神薬理学会 理事会

議長 代表理事 大隅典子

出席理事 岩田仲生

出席理事 池田和隆

出席理事 糸川昌成

出席理事 尾崎紀夫

出席理事 北市清幸

出席理事 久住一郎

出席理事 新田淳美

出席理事 橋本謙二

出席理事 橋本亮太

出席理事 服部信孝

出席理事 古屋敷智之

出席理事 宮川 剛

出席理事 渡邊衡一郎